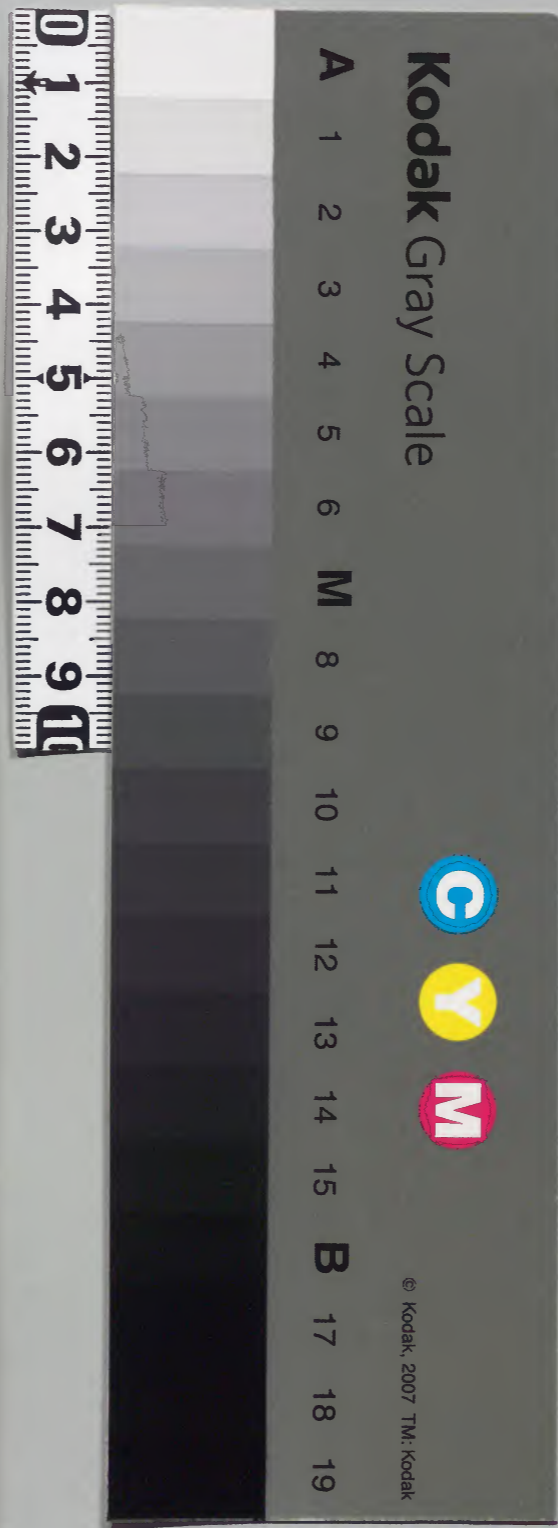


東山
 之
 文
 野
 口
 揚
 書
 紀

和書門類
 二七九一六號
 一八七函
 一〇册

庫文閣内
 内閣文庫
 番號 和 27916
 冊數 30 (9)
 函號 199 189



東北

明治十三年贈表

年立ゆき 妙蓮也 此一立のふ家

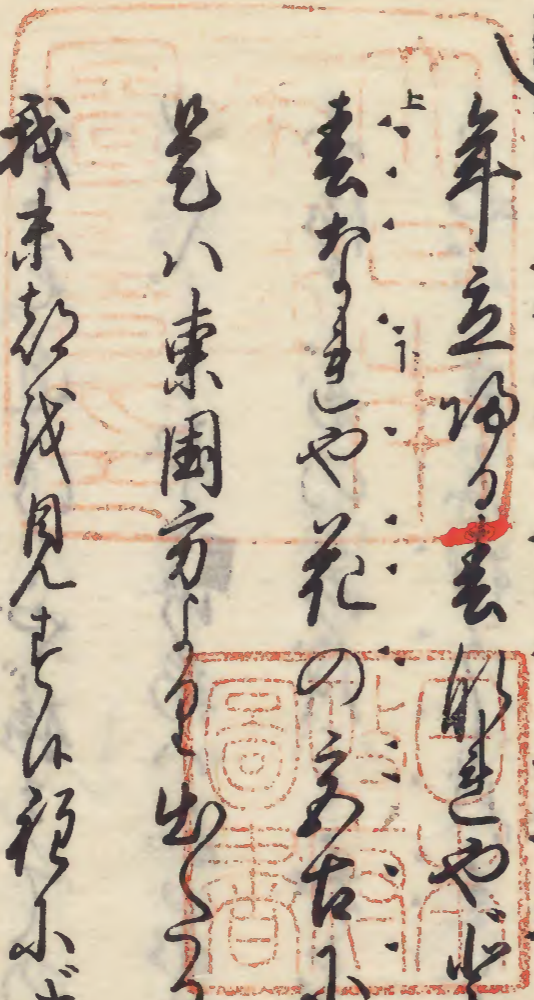
表かきしや 花のまが小登り人

是ハ東園方より出たる僧より申す

我未初浅見きしむ程ふげ表押し

左部へよりしむ 表を河屋敷乃

算とあはしむるに げあはる



一
希孝武彦形骸分業一^ト行^レつと
幸^ニこ^ト山^トま^トこ^トや^トま^トの^ト書^トを^ト終^レく^ト終^レん
る^トを^ト道^トに^トく^トや^ト様^トま^トて^トの^トと^トあ^トか^トう^トん
く
ぬ^トと^ト此^ト梅^トハ^ト和^ト泉^ト武^ト部^トの^ト梅^ト彦^トふ
小^ト梅^トく^ト武^トの^ト名^ト成^トを^ト和^ト泉^ト武^ト部^トと^トせ^トす
う^トや^ト美^ト屋^トむ^トひ^トく^ト此^ト書^トを^ト終^レく^ト又^ト書^ト
取^トち^トう^トら^トお^トさ^トう^トと^トあ^トく^ト面^ト白^トや^トい

な^トふ^トく^ト法^ト備^トを^ト何^ト事^トと^ト作^レり^トて
ん^トの^ト是^トハ^ト神^トと^ト形^トよ^トう^トと^トる^ト者^トと^トて^トい
う^トと^トな^トる^ト梅^ト彦^ト人^ト小^ト梅^トと^トく^トい^トく^トと^トお^ト泉
武^ト部^トと^トり^トの^ト形^トよ^ト不^ト審^トよ^トわ^トり^トの^トい^トな^トあ
入^トと^トや^トも^トい^トい^トい^トや^トう^トは^ト何^トれ^ト梅^トの
名^トハ^ト好^ト文^ト本^ト又^トハ^ト營^ト宿^ト梅^トな^トと^トい^トふ^トを
中^ト梅^トと^トい^トふ^ト女^ト人^トの^ト中^トせ^トし^トと^トて^ト用^トひ

東

うせあふ廻うしんけん寺ふ上東門院
の僧せのりーとたわあ式アハ乃
あ丈夫乃あのはばと休取とあし先
此梅と植抑ら新瑞の梅と名付め
きせんなるめあひあれとわと^下と
ぬなりしわの縁よげ経とも後補
結て逆縁の法利益とともなるか魚し

是くわわあ式の植のりー新瑞を
梅して修へ^んあとい梅はわあ式乃
植のりー新瑞の梅や又乃乃あ式の
ああは^んわあ式アハ休取とあ
けりか^と中くた^らわい^しあ^は寺
あわりーか^とわあ式部のあとして
ゆるとも^くとも^のあ^まあ^のあ

他^レも^レ六^レ巻^レと^レ今^レふ^レ絶^レき^レぬ^レ名^レ跡^レたる^レ
 實^レく^レ實^レし^レい^レし^レの^レ名^レ成^レ跡^レ一^レ行^レ
 形^レ見^レし^レて^レ花^レを^レあ^レり^レし^レと^レ兼^レふ^レと
 意^レく^レ名^レ者^レも^レ海^レ傍^レよ^レい^レと^レ絶^レたる^レ
 花^レれ^レき^レ今^レも^レひ^レり^レと^レ跡^レを
 かと^レ月^レと^レあ^レる^レよ^レ水^レ端^レの^レ梅^レ花^レ
 く^レあ^レり^レと^レあ^レる^レは^レ久^レく^レは^レた^レる^レ

高^レの^レな^レる^レと^レ世^レふ^レ実^レえ^レる^レ名^レ残^レや
 和^レの^レ式^レは^レ花^レの^レ後^レと^レあ^レや^レい^レし^レ
 と^レき^レく^レふ^レ付^レく^レも^レわ^レの^レひ^レて^レの^レ妻^レや^レ若^レの^レ
 妻^レか^レう^レぬ^レ我^レ身^レむ^レら^レつ^レそ^レう^レる^レり^レた^レり^レ兒
 積^レも^レも^レい^レに^レ若^レの^レあ^レる^レと^レを^レま^レよ^レ
 回^レま^レし^レた^レ若^レの^レ病^レ乃^レ世^レふ^レな^レあ^レれ^レと^レも
 け^レも^レ不^レ信^レを^レた^レそ^レも^レ此^レ若^レは^レ信^レ

男

三

法華經の御書御品とありつゝかよ漢彌
 志のひらふ折式部此世經乃初大成
 きつゝ門の外法を車此書定し我も
 火宅をぬぬるうねとがやうふやそ
 一し度今のわうゝ押ひ出せ授けぬふ
 そや 真くは欲とわぬ式部の蘇弁
 世と田舎まもくもす及しとねは証款乃

ん書の上とく火宅ともしおあへりや
 中くなるもや火あは出ぬまねうゝ極並
 花の基堂して漢並欲蘇の美落となら
 て 程世あふ澄月乃 物かを火宅
 今控 せ 三男 安の肉をうりて
 云々の車は法乃道をもや火表れ門成
 今そ和の式部の成名忘是をうりや

乃能き 凡人如欲其心之安んん法
 乃妙文その道後世ふある者ハ只
 和弁此人なりと貴之を是る成事なる
 形季 故ふる地を動し鬼神を感せ
 志ひるまわさ 神佛臨の可也
 ありぶあふ時花の如き井此を
 空までも長栄きん成候とて

叶ふ詠吟をとり 取ハ九^三の東水乃
 霊地^三にて玉城の鬼門とちりけ^三に
 と拂ふ雪水乃あ^上る山陰のか^三茂川
 や末^上白の春^上波風も漂き^カに^カハ
 樂の縁^上を^上ね^上を^上や^上海^上の^上池^上水^上成
 なる^三元^三の^三宿^三を^三池^三中^三の^三樹^三僧^三ハ^三鼓
 月下の門が^上入^上人^上跡^上数^上々^上神^上を^上ほ^上る^上神

堂敷を深くと色めく宵さほちるふく
 ちののちかこなり 見込園注の敷く
 順送乃縁をほほるは日救物善ふ意く次
 九反三伏の夏園く枝来ふりしと驚
 初と渴意乃松表風一夢の跡を信し
 てよ求美挽の機をらんせ池あり梅り
 月影を下化倉生の相成備する東小

陸湯の時美毛美生知くききり
 春法夜の 春法夜乃書をわ
 けく梅乃を非 又了花見をん梅もわ
 を隠れもやわかくあ 春法
 色よりともぐく者こそ多し部り
 子を神妙まう梅をん春 神ふまう
 客人のぬきとハ小忘夜書書特し

樂と乞書れ書
 鶯の梅をいふや
 日星夢の辱るとなり
 好文木を扱
 いくふ乞文を好木成舞
 唐の
 帝の法内を困ふ又學をむむの事
 花乃多をまをしく句ひをよるをみら
 く梅風はあふふ意を影りたをまて
 なりや花の根よ多の古巢よのふ

少くも丈夫の灯を火宅とや於人そ
 せん家をも花乃看ふ和泉式部
 姉少くもして方丈乃家よ入とみく
 羨い骨より入りけるゆえんはめふ
 年

東

西

芭蕉

長
 是ハ唐楚園の如らふ水と市に小居る
 儒者といひ我續徑の身なきは毎日悔事
 何れは更今と秋乃末月の秋とさうさ
 どの家小續徑を打まひ海りにけり小人
 善此同えい今秋を来りいり名をゆるを
 思ひい
 既夕陽西ようけり山使の陰冷

芭蕉

まうりして多れ夜鳥よりのと死 夕雲
そまほのくくせづく月小成り山影のあやぐ
まうきろは葉乃戸よび清径と後浦とれ清
経と後浦とる 芭蕉よ高と松の髪と
せ成よ抄らく松のくあわさるも風志破るあん
風破志と射て灯清易く月疎屋と穿て夏形
ア初下杖の軟とる雨うつ物にさうさい教は信

やと後ろ白鳥忠あうのいと来そのつ建威 衣
なるも山賊の友とを岩木成くれ 見ぬふの
休まや清乃花んぐ 深と六つうううまをれ
かうまぬの端あも寂者玉らわもかぐし葉の夜
毛房渡うはるもさる年月はさうめられせうさ
かこれ表むりの杖を形一表者乃妹老形
我漫浦乃抄婉とる抄者よ女人の身ふはる

およびえ縁ふさびりある人あく伸まんと

さしあわさるふ縁をのなるか所をさるる縁はと

更花縁持あれと形縁をさすけり也ト...

あさみえあるとれはつる今の縁の云れ縁

の菴内と縁のるなりと縁のるを縁

よ初とせあるとま 実と縁の縁縁の縁よ切

縁は事るれともさるる縁のるを縁のるを縁

人の口力ボソてゆきと来るとまき 甚所の

きつる身なりとととと人あつて我りま

栖いあそ小あそ 同一縁ととととと

ぬ体との縁よとるか 一樹を縁乃 菴

乃うらひ 情より月を縁縁縁の宿く

物も縁縁を縁の寺の縁と崖とれ縁の破色

林の山約を縁よ小いを伸じ月の縁を縁

.....
すわけのいひし蘭者の花時錦帳に
.....
廣山をぬり萩草居れ内そけり

.....
解ふし志すくえいし経續備る程内西入
.....
有部やけし経と種中やそわ我らと此の女
.....
人相情草本の類ひまでも程うそ世修人
.....
実のくし種園いよのうね只一念隨去の信心
.....
なまは一切志女人相情草本此草といまて

.....
何患疑うひき ねらふ分を部や信く草本
.....
成佛の湯と程も本し修人 兼草喻あは
.....
り身こそ草本園去有信情も皆是法は真相
.....
の 兼此あや云乃ある 仏事となれ
.....
や古井の底れんもそめふおろふ 灯を
.....
ひきて印の月のもせづくさ小憐むうさ
.....
のんを知し信乃人志教のまらるるあは

思ひの家あつた火宅と初ねるを道やれ柳を
かゝ梨花はら道な井と初事毛只も徳の文
書れ葉木も成仏の玉去そ茶佛の園を成爲し
不思議や梅も妙なり成女人と思ふふかしくも
法の理白系れそつらねるふか 中くは
何れうる雨乃末の園路とくろくといふをわん
法とくろく身といふ思つん 実なるこははる

受く死身の人思と 更ふ方そとわわん
初うやゆさの道さるふも思月の影をさる
庭の面を言れ中の芭蕉乃初まる安のまを
かえの心ある人と思ふと神の影法師のまを
早ふより徳のさせきと初るふまね
法と只今れ女人の言乃中のとせ銭の初まる安と
同くは影もねきとせ銭の女とわわんを

法

乃多ト花ハ小コ柴シ垣ケ草クサよヨかりカぬヌちチ振ヒたりリ 加カふフ
時トキよヨ未ミあアのノ心ココロをヲ祈ノりリ 伊イ勢セのノ
津ツ垣ケ浦ウラをヲ流ナすスはハ志シ押オ入イ入イのノ道ミチをヲくクよヨ家カよヨ納ノめメ
又マ雨アメのノもモとトありリ夕ユフかカあアるルもモあアるル夕ユフ
夕ユフれレ 花ハりリ別ワれレ野ノ天テンのノ心ココロはハ別ワれレ
あアりリ神カミをヲ祈ノりリ後ノチをヲ祈ノりリ人ヒトをヲ祈ノりリ毛モウ
けケはハ物モノをヲ祈ノりリきキ林ハヤシをヲ祈ノりリはハ神カミ乃ノ病ヤマト

牙キバをヲ碎クりリ夕ユフ乃ノ言コトんンのノ心ココロはハのノ心ココロはハ子コ種タネをヲ
花ハをヲ祈ノりリ暮クるル夕ユフのノ心ココロはハ人ヒトをヲ祈ノりリ年トシをヲ祈ノりリのノ心ココロはハ子コ種タネをヲ
本ホ枯カ更マてテくク牙キバをヲ祈ノりリ色イロのノ消クえエりリ花ハをヲ
いイはハるル何ナニとト思オモふフのノ心ココロはハあアるルあアるル世セにニ
はハ還マりリ恨ウラミをヲ祈ノりリ恨ウラミをヲ祈ノりリ我ワけケ
貴キのノ心ココロはハ古コ代ダイ思オモひヒをヲ祈ノりリおオまマいイとト

おまろの女姓一人 勿務とて来りてまゝに
いゝまろ人にてまゝとそ いゝ成者せしむる

そ何とても同前以てゆゑに是の古無文ふちて

ゆゑ人何れ梅りまて好文也 いゝ海をいゝゆゑ

まゝとて昔代物とて年々 いゝ人

清めば神変と好ゆ いゝ

かろの来あふはほる いゝ

是の昔よりあがりゆゑも定形と世と持人の教

かろ梅りまてとつり いゝ

思ひ信ふ得とて成事 いゝ

は所は消あひ いゝ

内神持あひ いゝ

あゝとけ息あ いゝ

かゝとの いゝ

百段

車屋ん いか成車と同であらば思ひと物か
まのいさか茂の糸は車あそひわハそ好せと
白露の 雨をまてきておのゆり 物見車
乃さほくふ時内めく菱れ上の 浮車とて人々
拂ひ立さつ死きるるを申ふ 牙ハ小車の屋
わさ毛解と着て立並らる 車のお後ま
むいともるそ 人々様さう付け人きまひの

おふ押やれくお見車の力のねき方乃程そ
思ひまもさるるがや思入る何事まじひの形
ばうきり力ハ柱うの小車此のるあくる車
ていほきてお毎規と助もあや高規と助者終る
ひくおゆら花乃種 月やとぬを親をわ
母のまき月もしうやおりうん 加方さり
をえ表の下は也表乃下露 身のおさあそ

八

八

上

江口

月と暮れ友好まて月ハさうなり友好まて世の
外ハはる成らん。 是ハ都方より出たる儒小

ての。我のまゝ西園成身と云はれ今思ひ立
る玉の脚と志は。 ねとちまゝと秋の路ま
核立く。 院の月身好ま居るうとの声
乃不のみえ。 松香烟の枝うらる。 江口此里小

江口

くろくたけのうらして先よあま

梅は江口

の君候よわつれあひさるそやいさるお吊りん

しひとあふれく不思議や船づく月澄りてふ

川あり梅女のうらふ船あそひ月ふみえきる神

きりくよふふみえうらふしは

く船とあそくあふ船の波たづく其世の愛と

みあうりの春うらふれはるのりよふお船の松

浦濱ごとあ神の波を舞ふお船あさる又字

治世梅女の向りしよとぬ人と約もあはく空

衣なりうらやあ船のうら花も雪もそも

波もいの世世あつや不思議をうら船はあ

水もあふ梅女の餘まうら不思議をうらあ人さる

人新とあそく作人あそをうらん

誰船とあそくわらうらうら梅女の川邊

よ迷ひ六根を存とほけ事を見方半同るふ

迷ふ心何之下 かりりや 実相子後志

大海よ又藝六秋の風を吹林とも 随缘志如

乃浪のぞくぬ目りけりぬ目る形 岐志

立屏を何故そ仮なる有よら何とじり火

心とあはれハ浮世も何 人とも羨り

物言りけり 別路志周知 花よ

紅葉よ月言のゆり半をおよかや 思入

も仮志者 哲人の仮れ者よらとしあせ

人とまふいさあ我をら 是までさるや海方

とそ別雷雲蒸着とあらし建航と白象

とあけむるりりふ白妙志白事ふら

赤くあのをよ新給ふき那そ哲人さるる

かろくをさるゆ程

楊貴妃

我まゝとてわぬ東をこれく道といはくは

ゆん 是ハ唐玄宗宗皇帝は佳ハ中

方士とてハ椒を我君政西く侍ち以中ふ

又色をまきく一艶を帯くとくはふより容

久世双乃美人を得給ふは冠帯双ハ形則

貴妃は定らふ楊家女清娘をうりお其名

汝の中よと今ハ甲斐形と方此露の救も
あぬ玉乃るうとるふるあふりけ情
まの似そをき世下 同子けくあまを種
枯くあふけこの使乃風らうめや又
しる更の憲兼れ海邊里と里不魂とあひ
扱上く之有魚きまめく上のあ海りて奏同
せんまめくしけ形ゆとのまの成きひあ

先くそあう形見りそを此管取出上方士ふ
つてそひりまて下 穉とよ是と世中よ
類ひ有魚き扱されしづつて信し海邊形け
方と君と人あまを契あひその兼りてま
とあふふ中上 実と是ら理り也回ひを
ゆか我りまう上初林の七日入秋二回ふ
扱上く之れ葉下 天子あふの教くを比

結

羽の香とぬん地よあふれりくハ連理
乃枝定まんと誓一奉とむそくふ侍人の
私語をねとも今自是神の後うね
世中乃く流摺生死乃智ひとて
馬懐よと海りと魂と伝まよあうは此羽
を友と乞独翅とくくき連理を枝朽て愈
多と愛ととも同一を病の約清けハ疾の

多涙を乾ひそと流りあへ
云て出帆の傳ひ中うるさと思ひ結しこの枝
いふあじそのあふる 我りまると何中ふふ
乃葉のうらつりむもあふれ身よがうらふ志と
しまくまう 秋栴をねび一登 冥
深山のまれうら月乃秋栴れ羽衣乃曲
とをわうを舞いとて まる取う

